

群 教 セ	G10 - 01
	平 16.223集

心に響くマルチメディア道德資料の作成

特別研修員 加藤 寿生（前橋市立荒子小学校）

《研究の概要》

本研究は、道德の授業において単調な展開を脱することを目指した実践的研究である。道德的価値に気付かせるために実在の人物の生き方に視点を当て、児童の心に響くマルチメディア道德資料を作成し、授業実践を通してその有効性を検証した。児童は食い入るように本資料を投影した画面を見つめ、登場した人物と自分の生き方を重ね合わせながら、道德的価値を自覚し、自分の生活に生かそうとする姿が見られた。

【キーワード：道德 小学校 心に響く資料 生き方 勤勉努力】

主題設定の理由

人間は、ある人や場面との出会いにより、人生観を変えることができる。道德の授業で使う資料も時には、そうでなければならない。道德の資料は、児童が道德的価値の内面的な自覚を深めていくための手がかりとして重要な意味をもっているが、道德の授業で一般的に使われている副読本を活用した授業は、資料の内容が児童の実態に合っていなかったり、授業展開が単調になったりして、児童を夢中にさせられないことが多い。児童を道德の授業に対して夢中にさせるには、その時間の道德的価値に気付かせる魅力ある資料の提示が欠かせない。

好きな教科等を尋ねてみると、道德はほとんどの児童が中位以下にあげていた。これは副読本に頼るマンネリ化した指導で、道德の授業が児童にとって魅力的なものになっていないからであると考え。「どんな資料を使って欲しいか」を問うと、「立派な生き方をした人の話」「本当にあった話」が上位を占めた。児童はリアリティのあるノンフィクション資料を活用した授業を期待しているものと思われる。

そこで、実在の人物の生き方をとりあげたマルチメディア資料を作成することにした。人物の実際の生きざまは、児童に感動を与え、道德的価値の自覚につながると考える。

また、コンピュータ・プロジェクタを通して提示される画面は、OHPよりも鮮明にリアルに情報を提示でき、授業が分かりやすくなる。他にも画面を動かすことができる、半永久的に保管・共有できる等の利点がある。道德においても、鮮明な画像や音声等を盛り込み、実在の人物のすばらしい生き方を提示すれば、児童は共感し、自分の生き方と重ね合わせることができ、心に響く資料になるであろう。

これらのことから、児童の実態やねらいに即した心に響くマルチメディア道德資料を作成し、授業作りに活用することで、児童は道德的価値に気付くことができると考え本主題を設定した。

研究のねらい

道德的価値に気付かせるために、実在の人物の生き方に視点を当て、心に響くマルチメディア資料を作成し、授業実践を通して有効性を検証する。

研究の見通し

実在の人物の生き方をとりあげた心に響くマルチメディア資料を作成し、授業作りに活用す

ることによって、児童は授業のねらいである道徳的価値に気付くようになるであろう。

研究の内容

1 心に響くマルチメディア道徳資料の概要

(1) 基本的な考え方

ア 「心に響く資料」とするために

ただ感動や衝撃を与えるだけでは、児童に必要な情報までが入り集中力や興味・関心が薄れてしまうので、「心に響く資料」とはいえない。児童一人一人が、より良いものを求めようとする心や美しいものに感動する心だけではなく、怠け心やずるい心などの人間的な弱さがあることを自覚することが大切である。そして、自分自身の問題としてこれらの事柄を受け止め、真剣にかかわっていくことではじめて心が揺れ動き、「心に響く」道徳の時間の授業が成立する。

実在の人物の伝えたい生き方をとりあげる場合、以下のような考えで資料を作成した。

- 「ねらいとする価値に即した生き方をしている」という観点で人物を選択する。
- なるべく多くのエピソードや画像を集める。
- 資料を通して伝えたい生き方が伝わるように、集めた資料を精選し授業を組み立てる。
- その資料だけあれば授業ができるように、画像や音声だけでなく、その時間の授業に必要な発問や指示なども盛り込むようにする。

すべての学年で授業ができるように、発達段階に合わせて6つ作成した(表1)。

実在の人物の生き方をとりあげているため、ねらいとする価値は、「1 主として自分自身に関すること」に限定した。

表1 作成した資料

	ねらいとする価値	主 題 名
低学年	1 - (2) 勤勉・努力	障害は不幸? ~レーナマリアさんに学ぶ~
	1 — (2) 勤勉・努力	アイメイト誕生物語 ~塩屋賢一さんに学ぶ~
中学年	1 — (3) 勤勉・努力・忍耐	運も実力のうち ~田口信教さんに学ぶ~
	1 - (3) 勤勉・努力・忍耐	成功の法則 ~志村けんさんに学ぶ~
高学年	1 - (2) 希望・勇気・不撓不屈	努力と工夫で夢をつかむ ~イチロー選手に学ぶ~
	1 - (2) 希望・勇気・不撓不屈	6000人の命のビザ ~杉原千畝さんに学ぶ~

イ 資料作成上の配慮

- PowerPointを使用して作成する。
- アニメーション機能を活用して画像や発問、指示を提示することにより、児童の印象に残るような構成にする。
- 静止画だけでなく、動画や効果音、BGM等も活用して、臨場感のある資料にする。
- 可能な限り本人(所属団体)に利用許諾を得るとともに、質問や依頼をするように努める。

(2) 資料活用の基本方針

教室のコンピュータ活用の中心は、教師である。教師がプロジェクタを通して資料を提示し、児童はスクリーンに映し出された画面を見て授業を受けるスタイルとする。このことは、児童の目が教室前面のスクリーンに集中する、必要な部分のみを提示でき、余分な情報が入らない、画像を鮮明に提示できるなどのメリットがある。

(3) 資料の構成（中学年「運も実力のうち」の例）

[illegible]

2 本資料の内容

(1) 障害は不幸？～レーナマリアさんに学ぶ～

スウェーデンのゴスペル歌手、レーナマリアさんは、出生時から両腕がなく、左脚が右脚の半分の長さしかないという重い障害を負う。両親は自分たちの手で普通の子と同じように育てようと努め、小中学校とも普通校に学んだ。彼女の明るく前向きな生き方と澄んだ歌声は、世界中の人々に生きる勇気と希望を与え続けている。障害があることは決して不幸ではないことが伝わってくる（図1）。

みなさんにはできて レーナさんには
できないと おもふことを かきましよう。



図 1 レーナさんにできないことを問う

(2) アイメイト誕生物語～塩屋賢一さんに学ぶ～

50年前の日本に盲導犬は1頭もないばかりか、存在も知られていなかった。塩屋さんは自分の目を手ぬぐいで隠し、目の見えない人と同じ立場になって、何度も実験を繰り返した(図2)。そして昭和32年、数々の困難を乗り越え、ついに日本初の盲導犬第一号「チャンピイ」を誕生させた。こうして塩屋さんが育てた盲導犬は、目の見えない人たちに喜ばれ、全国へ広がっていった。

(3) 運も実力のうち～田口信教さんに学ぶ～

世界大会のファイナリストには、ほとんど力の差がない。1972年ミュンヘン五輪で、田口さんは、「運」を味方につけたいと思い、見つからないようにして合宿所の皿洗いを続けた。落ちているゴミも、人に見つからないようにして拾った。誰からも「ありがとう」と言われない良い行いをたくさんして、「運」を貯金した。このように、「陰徳」(人に知られない良い行い)(図3)を積み重ね、100m男子平泳ぎでは当時の世界新記録で金メダルを取ることができた。

(4) 成功の法則～志村けんさんに学ぶ～

志村さんはドリフターズの新メンバーになり「8時だヨ!全員集合」にも出演するが、2年間は何をやってもうけなかった。苦し紛れに口をついた「東村山音頭」でようやくブレイクし、その後一躍お笑い界のトップスターとなった。そんな志村さんが必ず守っているのは、礼儀正しくすることと時間を守ることであり、「当たり前のことをコツコツやるのが一番大事だ。些細なことを、地道に当たり前のように続けていれば、そのうち周りが認めてくれる。」(図4)と言う。

(5) 努力と工夫で夢をつかむ～イチロー選手に学ぶ～

「ぼくの夢は、一流のプロ野球選手になることです。(中略)ぼくは、3才のころから練習を始めています。(中略)3年生の時から今までは、365日中360日は、激しい練習をしています。(中略)そんなに練習をやっているのだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。(後略)」というイチロー選手の小学校の卒業文集に書いた作文(図5)を紹介。大きな夢を抱き、その夢の実現のために努力し続けることの大切さを考えさせることができる資料である。

(6) 6000人の命のビザ～杉原千畝さんに学ぶ～

第2次大戦中、ナチスの迫害から逃れ行き場を失ったユダヤ人が危険から逃れる道はただ一つ、日本の通過ビザをもらって外国に脱出することだけであった。杉原千畝さんは日本の外務省が発行を許さなかった通過ビザを自分の判断でおよそ1か月間ずっと書き続け6000人もの命を救った(図6)。日本人の気概ある行動を事実によって証明していくにふさわしい、力のある題材である。



図2 盲導犬の訓練方法

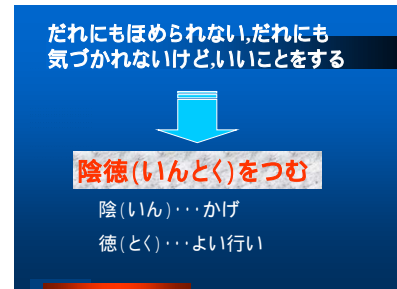


図3 「陰徳」の説明

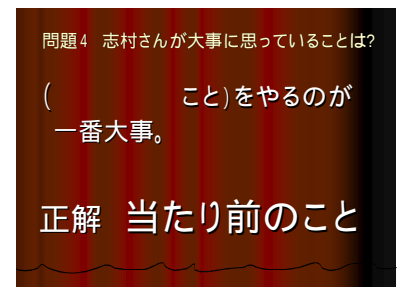


図4 当たり前が一番大事

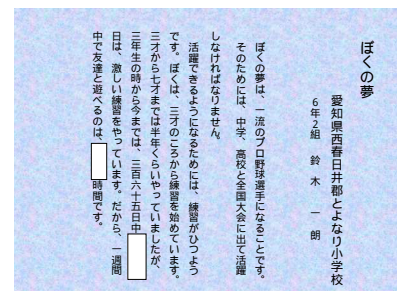


図5 小学生時代の作文

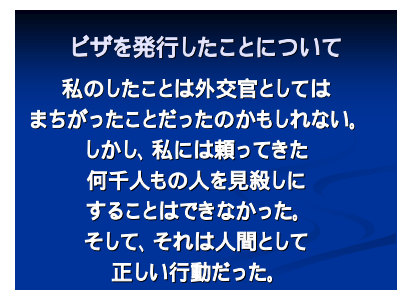


図6 後に回想して

3 実践の結果と考察

(1) 授業実践

- ア 主題名 運も実力のうち～田口信教さんに学ぶ～ 1—(3)勤勉・努力・忍耐
 イ ねらい 田口信教さんの生き方から「陰徳」を学び、普段の生活に実践しようとする心情を養う。
 ウ 対象 3年2組 26名
 エ 準備 ノートパソコン、プロジェクタ、スクリーン、ワークシート
 オ 展開

学習活動・コンテンツ	発問等と予想される児童の反応	時間	支援及び留意点
・良いことをした経験を発表する。	だれにも気付かれないけど、良いことをしたことはありますか？ ・トイレのサンダルをそろえた。 ・家で手伝いをした。	5	・該当する児童を起立させ、発表させる。
・今日の役者を紹介。 [田口さんの写真]	田口信教さんを紹介します。	3	・田口さんのプロフィールを紹介する。
・金メダルと銀メダルの違いを知る。 [メダルの写真]	日本一高い山は？・富士山 世界一高い山は？・エベレスト 日本で2番目に高い山は？・知らない 世界で2番目に高い山は？・知らない	6	・世界1位と世界2位では、有名さも、その後の経済活動などにも差が出てくるので、オリンピック選手は金メダルを目指すことをおさえる。
・世界一になるために何を身に付けることが大切かを考える。 [3択クイズ]	「オリンピック選手になってから、どうしたら『●』というものを身に付けられるのか考えてきました。」 ●に入る言葉は何でしょう。 ・力 ・運 ・技	3	・オリンピックのファイナリストになれば誰が金メダルになってもおかしくはない。しかし、金メダルになる人間は、いつも金メダルになる。実力以外の何かが必要であることをおさえる。
・田口さんの行った、運を強くする方法について考える。 [5択クイズ]	田口さんはどのようにして運を強くしたのでしょうか？ ・くじ ・じゃんけん ・良い行い ・人にほめられる ・時間を守る	3	・ワークシートに書かせて発表させたのち、正解(人に知られないように良い行いをする)を伝え、田口さんの選手時代のエピソードを話す。
・「陰徳」を紹介し、クイズに答える。 ○×クイズ(アニメーション) 正解の音(ピンポン!) 不正解の音(ブー!)	「陰徳クイズ」をします。 陰徳だと思ったら○、違うと思ったら×で答えてください。	10	・田口さんの行為を「陰徳」と言うことを伝える。 ・陰徳の仕組みを理解させるために、○×クイズをアニメーションで紹介する。
・「陰徳」を積んだ結果を予想する。 [4択クイズ] [当時の写真]	田口さんが陰徳を積んだ結果はどうだったでしょうか？ ・金メダル ・銀メダル ・銅メダル ・4位	3	・予想を挙手させたのち、正解を発表する。 ・ピストルの音や水に飛び込む音などが出るようにするとともに、当時のエピソードを紹介し、臨場感が出るようにする。
・感想を書く。	田口さんは、どんな人だと思いましたか？今日の授業で気付いたこと、思ったことなどを書きましょう。 陰徳をしてみたい人？	10	・早く書けた児童に発表させる。 ・最後に聞き、実践につなげる。

(2) 結果と考察

田口信教さんの生き方から、陰徳を学び、普段の生活に実践しようとする心情を養うことをねらいとして本校の3年生を対象に授業実践を行った(図7)。

田口さんは「運」に着目し、代表選手の合宿所で「陰徳」(人に知られない良い行い)を積み重ね、ミュンヘンオリンピック100m男子平泳ぎでは当時の世界新記録で金メダルを取ることができた、という内容である。

児童は「陰徳」という言葉を初めて聞くため、良いことをしても、ほめられたら陰徳はゼロになるという陰徳の仕組みについて正しく理解してもらおうと○×クイズに取り組みさせた。具体的な事例をとりあげ、問題が易から難(レベル1～6)に配列されているので、陰徳のことがよく分かったようである。児童はレベル4までは全員が正解でき、成功体験を繰り返すことで学習意欲が出てくると同時に、「陰徳」という言葉を聞いても



図7 授業風景

抵抗がなくなった（図8）。

また、30年以上前のエピソードなので、書籍やWebページをあたり、できるかぎり当時の画像やエピソードを提示し、効果音、BGM、具体物も活用して、臨場感あふれる授業となるように心がけた（図9）。児童は食い入るように画面を見つめ、当時の田口さんと自分自身を重ね合わせ、一つ一つの発問に答えていた。児童の感想には、以下のようなものが見られた。

○「気付かれないでゴミをひろったりおさをあらったりするのは、私なら気付かれてしまいます。田口さんはすごいと思います。」

この児童は、田口さんが行った陰徳を正しく理解し、田口さんに尊敬の気持ちを抱いている。

○「運は神様がくれたチャンスと思ったのかな？いんとくを私もたくさんしたいです。」

この児童は、本資料の活用により、陰徳を実践してみようという心情になっている。

○「私は気付かれないようにすることはできません。どういうふうに良い行いをしたのか知りたいです。私も今度いんとくをしてみたいです。」

この児童は、田口さんと自分の生き方を対比したうえで、陰徳を実践してみようという心情になっている。

授業の最後に「陰徳をしてみたい人？」と聞いてみたら、全員が手を挙げた。授業後、頼まれていないのに他の子の机やイスをそろえたり、トイレのサンダルを全部そろえたりする児童が見られた。また、児童の会話の中に「僕、陰徳をしてきたよ」など、「陰徳」の言葉が聞かれた。本資料が児童の心に響き、実生活に生かそうとする姿がうかがえる。

このような児童の姿や感想文から、本資料は授業のねらいである道徳的価値に気付くための一助となったことが分かる。

研究のまとめと今後の課題

本研究は、道徳的価値に気付かせるため、児童の心に響くマルチメディア道徳資料を作成し、その有効性を検証したものである。実在の人物の事実をとりあげることで、児童は感動や衝撃を受けていた。また、臨場感のある画像、音声などをプロジェクタで提示したことにより、児童は登場した人物に共感をもち、自分の生き方と重ね合わせて道徳的価値について考えることができた。その結果、道徳的価値をより深く自覚し自分の生活に生かそうとする姿が見られた。

以上のことから、本資料を授業で活用することは、授業のねらいである道徳的価値に気付かせるのに有効であったと考える。

今後の課題としては、児童の発達段階や実態に合わせた資料の作成が考えられる。身に付けて欲しい道徳的価値に即した人物の生き方が鮮明に伝わるよう、今後も充実を図っていきたい。

< 参考・引用文献 >

・TOSS道徳教育研究会・河田孝文編『「力のある資料」で心に響く道徳授業を創る！』明治図書(2004)

Microsoft PowerPoint は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標、または登録商標です。

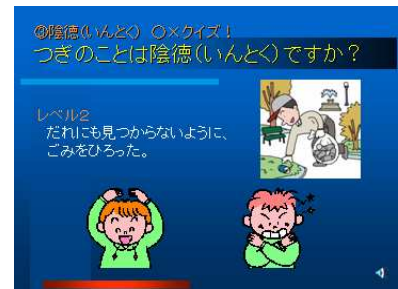


図8 「陰徳」○×クイズ



図9 具体物の活用